

# 第2章

## 秋田市の概要

# 1 市勢および人口

## (1) 市勢および沿革

秋田市は、歴史ある県都として、秋田県の人口、県内総生産ともに約3分の1を占める、秋田県内および北東北の拠点中核都市です。

秋田市の歴史を振り返ると、中世以降、全国有数の港町として栄え、地域の政治・経済・文化の中心として繁栄しました。慶長9（1604）年には、現在の千秋公園に久保田城が築城され、今日を中心市街地の原型となる城下町が建設されました。

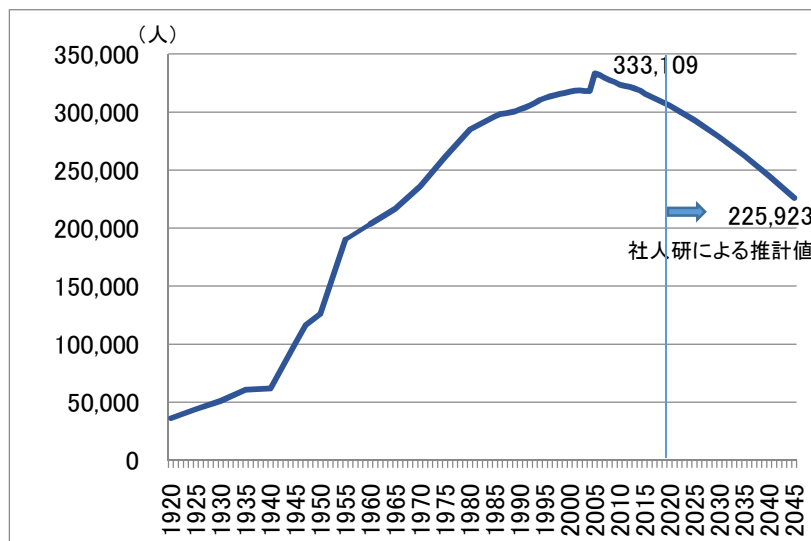
明治22（1889）年に市制を施行した後は、周辺町村との合併や雄物川放水路の開削、秋田港と秋田運河の改修、工業地帯の造成、秋田新幹線をはじめとする高速交通体系の整備などにより、発展を遂げました。さらに、平成9（1997）年に「中核市<sup>\*</sup>」に移行、平成17（2005）年には旧河辺町および旧雄和町と合併し、現在の市域となっています。

## (2) 人口

本市の人口は、戦後、周辺町村との合併を経て急増し、高度経済成長期以降も一貫して増加を続けてきましたが、平成15（2003）年には減少に転じています。

平成17年には河辺町および雄和町と合併して33万人に達しましたが、その後も減少が続き、現在は30万5千人となっています。国立社会保障・人口問題研究所によると、令和22（2040）年には、約24万5千人まで減少すると推計されています。

●本市の人口の推移、将来推計



資料：秋田市人口ビジョン

## 2 地理、気候、産業等

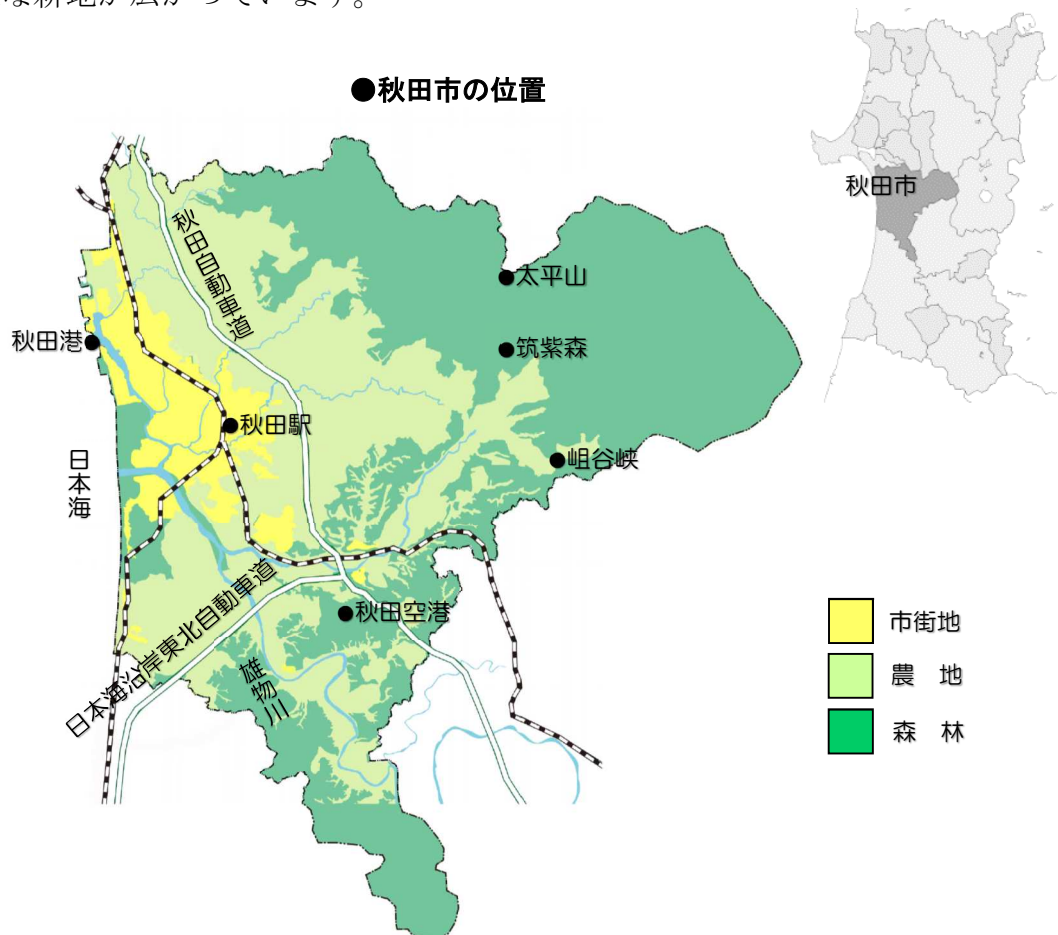
### (1) 地理

本市は、本州の東北、秋田県の日本海沿岸地域のほぼ中央部に位置しており、906.07km<sup>2</sup>の市域を持ち、緑豊かな山と川、海などの自然環境に恵まれています。

市街地は秋田平野の中央部に広がり、田園地帯が市街地を取り囲んでいます。東部には、標高1,170.6mの太平山をはじめ、秋田杉やブナにおおわれた出羽山地が広がり、岨谷峡や筑紫森といった景勝地が点在しています。

海岸線は単調であり、延長約23.5km、海岸線から1～2kmの範囲には、砂丘地が南北に走っています。

南東部から北西部にかけて雄物川が貫流し、流域には平坦で生産力の高い肥沃な耕地が広がっています。



### (2) 気候

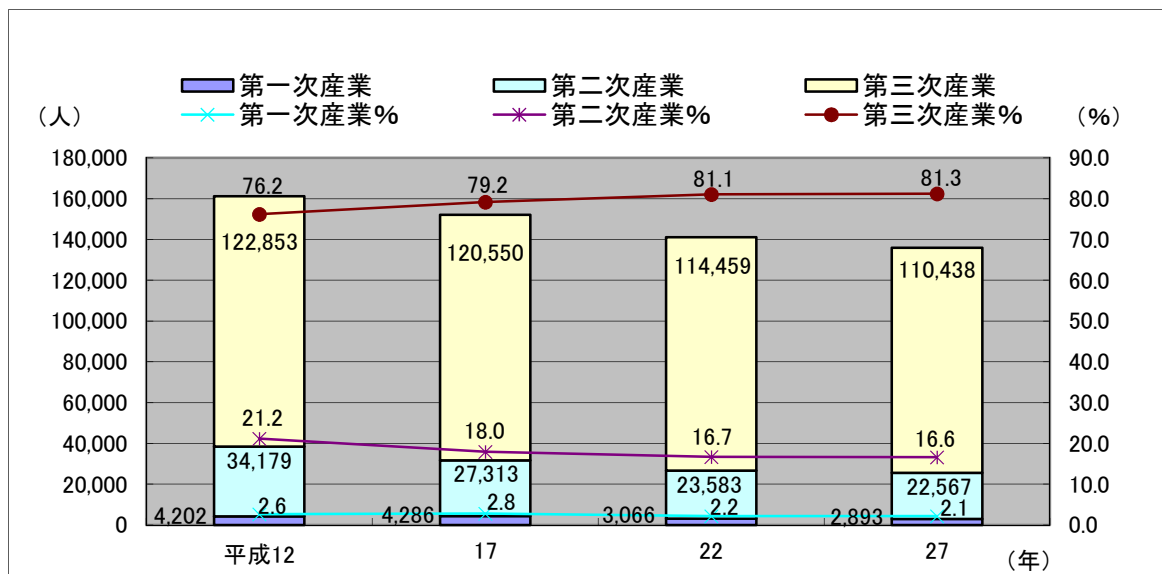
本市は、典型的な日本海側気候となっています。

秋田地方气象台における令和3（2021）年の平均気温は12.9℃で、平年値※（1991～2020年の平均）よりも0.8℃高くなっています。また、日照時間は1,755.7時間で、平年値よりも228.3時間長くなっています。

### (3) 産業の動向

国勢調査による平成12（2000）年以降の産業別就業者数の構成割合は、第一次産業と第二次産業が減少する一方、第三次産業が増加しています。平成27（2015）年度の産業別就業者数の割合は、第一次産業が2.1%、第二次産業が16.6%、第三次産業が81.3%となっています。

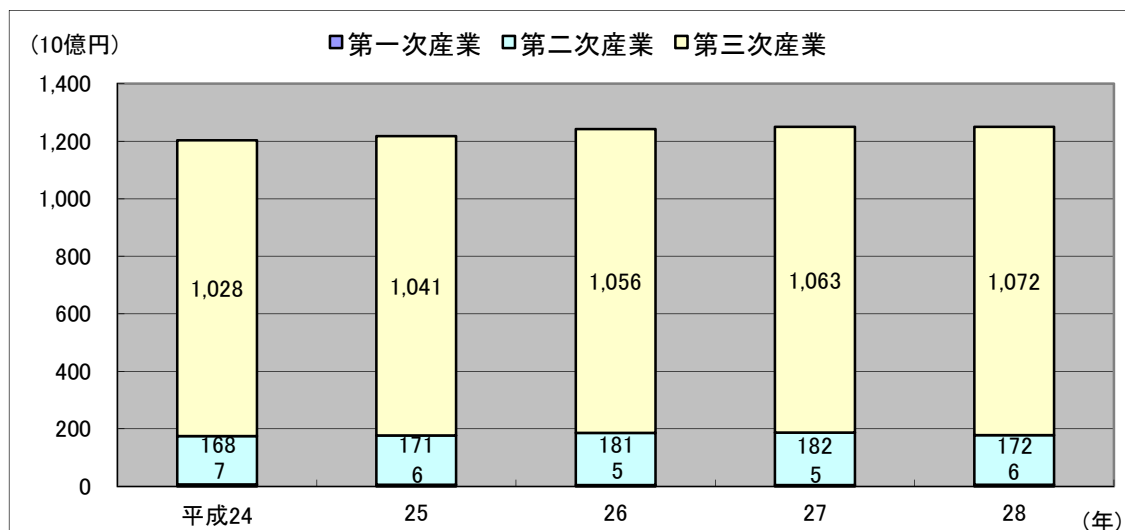
●産業別就業者数の構成割合の推移



資料：平成27年国勢調査

産業別市内総生産を見ると、第一次産業は、平成24（2012）年以降50億円台前半から70億円台後半で推移しています。第二次産業は、平成24（2012）年は約1,688億円でしたが、平成28（2016）年は1,727億円と回復傾向にあります。第三次産業は、平成24（2012）年の約1兆282億円から平成28（2016）年の約1兆724億円まで毎年増加が続いています。

●産業別市内総生産の推移



資料：市民経済計算